

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月13日現在

機関番号：32809

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22792273

研究課題名（和文）回復期リハビリテーション病棟の排尿ケアの質を高める現任教育  
プログラムの開発と検証研究課題名（英文）Development of educational program that improves kaihuku  
rehabilitation ward nurse's urination quality of care

研究代表者

阿部桃子（ABE MOMOKO）東京医療保健大学・医療保健学部・講師

研究者番号：80347195

研究成果の概要（和文）：

本研究では、回復期リハビリテーション病棟の排尿ケアの質の向上を目的とした現任教育プログラムの検討を行った。回復期リハビリテーション病棟入院患者における下部尿路症状の実態と排尿ケアの実態調査を基に（2010年）、回復期リハビリテーション病棟看護師を対象とした現任教育プログラムを作成した（2011年）。次に、回復期リハビリテーション病棟2病棟の看護職30名に教育プログラムを三か月間実施した。プログラムの評価は、排尿ケアシステムと排尿ケア、看護師の排尿ケアに対する意欲と実行度、入院患者の下部尿路症状、排尿のセルフケア（排尿管理／排尿動作）についてプログラム前後で調査した（2012年）。現任教育プログラムは28名が遂行した。排尿ケアシステム・排尿ケアは、初期アセスメントの導入、排尿日誌の活用、尿失禁の種類判断、蓄尿症状の度合判断と医師への報告等が介入前に比べ両病棟とも30～40%増加した。看護師の排尿ケアに対する意欲と実行度は、両病棟とも上昇傾向がみられた。対象者数が少なかったため、統計学的に有意な差は得られなかったものの、一定の成果を得た。

研究成果の概要（英文）：

In the present study, the present duty education program to improve the urination quality of care of kaihuku rehabilitation wards was examined. The present duty education program intended for the kaihuku rehabilitation wards nurse was made with the realities of the lower urine road symptom in the kaihuku rehabilitation wards in-patient based on the investigation of actual conditions of caring urination. Next, the educational program was executed to nursing 30 of the two kaihuku rehabilitation wards for three months. The evaluation of the program investigated the desire for the urination caring system, the urination caring, and the nurse's urination caring, the execution levels, in-patient's lower urine road symptoms, and the self care of urination (urinary management/urination operation) before and after the program. The urination caring system and the urination caring have increased by both wards and 30-40% compared with before the report to the judgment of the kind of the use of the introduction of an initial assessment and the voiding diary and the urine incontinence, the judgment of the degree of the pooled urine symptom, and the doctor etc. intervene it. As for the desire and the execution level to the nurse's urination caring, both wards and uptrend were seen. A constant result was achieved though a significant difference was not obtained in statistics because the number of object people was little.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・高齢看護学

キーワード：看護学、リハビリテーション、脳神経疾患、排尿ケア

1. 研究開始当初の背景

回復期リハビリテーション病棟での排尿の自立支援は、生活機能の維持・向上を図るうえで極めて重要である。しかし、看護師の尿失禁タイプの把握をはじめ、排尿ケアに対する自己効力感は低い(2009)

2. 研究の目的

回復期リハビリテーション病棟入院患者の下部尿路症状、看護師の排尿ケア実践の促進・阻害要因を明らかにし、排尿ケアの質を高める現任教育プログラムを開発する。

3. 研究の方法

2010～2011年：国内の回復期リハビリテーション病棟の下部尿路症状、看護師を対象に排尿ケアの実態、排尿ケアの促進、阻害要因に関する実態調査を行う。2011年～2012年：調査結果を基に、回復期リハビリテーション病棟の現任教育プログラムを作成、試行し、その結果を検証する。

4. 研究成果

2010年の国内回復期リハビリテーション病棟入院患者における下部尿路症状の実態と、排尿ケアの実態調査を基に、平成23年度に回復期リハビリテーション病棟看護師を対象とした現任教育プログラム(案)を作成した。

2011年～2012年に高齢者の排尿ケアに実績のある看護学研究者、下部尿路障害の治療に実績のある泌尿器科専門医から意見聴取を行い、内容の精選を図った。次に、回復期リハビリテーション病棟をもつ看護管理者、看護師長、WOCNsに諮り、現実可能性を検討した。次に、研究同意の得られた回復期リハビリテーション病棟2病棟の看護職30名を対象に、現任教育プログラムを三か月間実施した。現任教育プログラムは、講義、グループワーク、系統的事例検討で構成した。現任教育プログラムの評価は、排尿ケアシステムと排尿ケア、看護師の排尿ケアに対する意欲と実行度、入院患者の下部尿路症状、排尿のセルフケアについてプログラム前後で調査した。現任教育プログラムは28名が遂行した。排尿ケアシステム・排尿ケアの変化は、初期アセスメントの導入、排尿日誌の活用、

尿失禁の種類の判断、蓄尿症状の度合の判断と医師への報告等が両病棟ともみられた。看護師の排尿ケアに対する意欲と実行度は、両病棟とも上昇傾向がみられた。しかし対象者数が少なかったことから、統計学的に有意な差は得られなかった。判断と医師への報告等が介入前に比べ両病棟とも30～40%増加した。看護師の排尿ケアに対する意欲と実行度は、両病棟とも上昇傾向がみられた。よって、対象者数が少なかったことから、統計学的に有意な差は得られなかったものの、一定の成果は得られた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計3件)

① ABE MOMOKO : Prevalence of Storage Symptoms among Stroke Patients in Rehabilitation ward and its relation to Activity of Daily Living (ADL) and Depression Level : 14<sup>th</sup> East Asia Forum of Nursing Scholars, 2011.

② 阿部桃子, 陶山啓子, 佐藤和佳子ほか5名：根拠に基づく高齢者排尿誘導法ガイドラインの開発(2), 第25回日本老年泌尿器科学会, 2012.

② 堀江竜弥, 阿部桃子, 佐藤和佳子ほか5名：根拠に基づく高齢者排尿誘導法ガイドラインの開発(3), 第25回日本老年泌尿器科学会, 2012

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

阿部桃子 (ABE MOMOKO)

東京医療保健大学・医療保健学部看護学科・准教授

研究者番号：80347195

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

佐藤和佳子 (SATO WAKAKO)

山形大学医学部看護学科・教授

研究者番号：30272074